

2025 年 3 月 26 日

第 2 期中期計画

(前文) 法人の目標

AI をはじめとするテクノロジーの飛躍的進歩が社会を根本的に変えつつある現在、世界に目を向けると、社会秩序が流動化するとともに、グローバル化とローカリゼーションが共存して、様々な課題が顕在化している。国内に目を向けると、人口減少・少子高齢化、過疎化や頻繁な自然災害のために社会システムの再構築やそれらを担うグローバル人材の育成という課題が出てきている。

それらを背景に、これから実現すべきことは、国連が 2030 年までに達成すべきとした SDGs を基盤とする、日本や世界が直面している課題の解決、ダイバーシティ・エクイティ&インクルージョンの推進、そしてウェルビーイングの達成である。

学校法人城西大学は、不確実性の時代に突入した中でも、これまでの大学の歴史の中で共有してきた建学の精神「学問による人間形成」の下、城西大学と城西国際大学の強みを活かし、2025 年 2 月に中央教育審議会の答申として出された「我が国の『知の総和』向上の未来像～高等教育システムの再構築～」を視野に入れて、社会と連携・協力して創造性・感性・デザイン性・企画力等、新たな価値を創造する力や人間力を育成する大学となることを法人の目標として設定し、これらの目標の実現を目指した中期計画を策定する。

目指す基本的方向性

学校法人城西大学は、次のような基本的な考え方にに基づき、第 2 期中期計画期間中の法人運営を行うこととする。

1. 学生をはじめとするマルチステークホルダーに信頼され、選ばれる大学となるために、学修者の視点を中心に据えて、一人ひとりの学生に真摯に向き合い、全ての学生に対して自律した個を備え、多様な価値観を尊重し、成果を生み出す力を身に付けさせる教育を徹底する。
2. 大学が有する地域性や国際性の特色を発揮した教育プログラムを充実させ、文理融合教育や大学院教育を更に推進することにより、データサイエンス及び国際対話の素養を備え、課題を克服しつつ地域社会の要請に応えて新しい価値を創造できる人材を育成する。
3. 大学の持続的発展を支えるための組織及び財政基盤を確立・強化するために、ガバナンスや組織マネジメント、リスクマネジメント、コンプライアンス等を強化・徹底するとともに、経営強化施策を実行し収支の改善を図る。
4. 大学の強みや特色を最大限に発揮するために、一法人二大学としての経営を強化し、教育研究環境の整備、二大学の持つリソースの相互利用、教育の共同実施、地域大学との連携推進、産学官金との連携強化等を進める。

城西大学の目標

城西大学は、「競争から協創へ、育ちあう大学」を目指し、学生・教職員・地域社会が共に成長できる環境を整え、全ての学生に「全学共通基盤科目」を導入し、リベラルアーツ教育、データサイエンス教育などを通して「協創力」を養う教育・研究の充実とその成果の可視化を図る。坂戸キャンパスでは 23 号館「JOSAI HUB」をコアとして、また、情報数理学科が入る東京紀尾井町キャンパスでは地の利を活かし、文理を越える知の横断と融合、学生と教職員の交流、地域の社会や産業界との連携をさらに進め、本学を HUB（接合点）とする多様な「協創」を生み出すことを目標とする。

城西国際大学の目標

城西国際大学は、経営情報学、人文学、メディア学、観光学、社会福祉学、理学療法学、看護学、薬学の各分野で求められる専門・実務能力、及び文理融合の視点に立つ多角的な考え方や連携する力の修得に必要な学びを、学修者の視点から教職協働で提供する。また、世界に広がる国際大学としてのネットワークを活かして、大学院を含む、幅広い教育・研究活動を展開し、多様な価値観を理解し地域や世界で活躍できる人材を育成する。さらに、都心と郊外に所在する 2 キャンパスの特性も活かし、産官学金の協働を推し進めながら地域社会の諸課題に向き合い、地域活性化や文化振興に貢献する。

第 2 期中期計画の期間

第 2 期中期計画の期間は、2025 年 4 月 1 日から 2030 年 3 月 31 日までの 5 年間とする。

第2期中期計画（城西大学・城西国際大学全体像）

（8つの目標）	城西大学（25達成基準）	城西国際大学（27達成基準）
I 「教育力」の強化 学生一人ひとりを大切に丁寧な教育と学生の学修成果に対する内部質保証を徹底し、社会に貢献する豊かな人間形成の場を創出する。	1. 教育の質保証の徹底 2. 教育改革（学生の能力を最大限高めるための学修者本位の教育の実現）の展開 3. 時代に即した大学院・学部教育への変換 4. 学修環境の整備	1. 教育の質保証の徹底 2. 基盤教育の充実を核とする教育改革の展開 3. 時代に即した質の高い学士課程教育及び大学院教育の展開 4. より質の高い教育研究活動の実現を目指した学修環境の整備
II 「学生支援力、就職・大学院進学支援力」の強化 学生一人ひとりが入学から卒業・修了まで安心して真に豊かな学生生活を送ることができるよう、大学全体として学生を支援するとともに、就職・大学院進学支援では希望・能力・個性に合わせた多面的支援を創出する。	5. 修学支援の充実（障がい学生支援含む） 6. 正課外教育の推進 7. 退学・休学の防止 8. キャリア教育及び就職・進学支援の充実	5. 修学支援の充実 6. 正課外活動の準正課教育への転換 7. 退学・休学の防止対策の徹底 8. 就職・進学支援及びキャリア教育の充実
III 「ブランド力・学生募集力」の強化 本学の魅力を最大限活かした独自のブランドを構築し、ユニバーシティ・アイデンティティを確立して、そこにふさわしい学生が参集する場を提供する。	9. 大学ブランド力の強化 10. 学生の受入れと学生募集力の向上（入学定員総数確保）	9. 学生の受入れと学生募集力の向上（入学定員90%以上を目標） 10. アドミッション・ポリシーと受験者ニーズに基づいた入試への改善 11. JIUの総合価値の向上及び情報発信
IV 「国際力」の強化 世界の多様なパートナーと協働して本学の「知」を波及させ、「国際」を冠する大学にふさわしい、ダイバーシティ・エクイティ＆インクルージョンのあるグローバルな学修環境を創出する。	11. 国際交流基盤強化と支援体制の確立 12. 外国人留学生の受入れと就学環境の整備 13. 在学生の海外留学の促進	12. 国際社会への貢献に向けた基盤強化 13. 外国人留学生の戦略的受入れと就学環境の整備 14. 本学学生の海外留学と国際体験の促進
V 「研究力」の強化 本学を特色付ける研究領域を再構築し、研究成果を創出して、その成果を国内外に公表し、相互研鑽の研究拠点として、社会に貢献する研究環境を創出する。	14. 国際的研究成果の創出・発信と外部資金獲得の向上 15. 研究費の管理運営体制整備	15. 研究成果の創出と発信 16. 研究資金力の強化

VI 「社会との共創力」の強化 多様なステークホルダーと協働して社会の持続的発展に貢献することにより、社会にとって存在意義のある大学として認められることを目指して、教育研究活動等を通じた「地（知）の統合拠点大学」を創出する。	16. 地域連携活動推進と地域人材育成並びに教育研究成果の地域への還元 17. 産学官連携による地域社会・地域産業の課題解決への寄与	17. 地域創生機能の強化・教育カリキュラムの展開 18. 産学官連携による地域社会・地域産業の課題解決等への寄与 19. 教育研究成果の地域還元
VII 「IT・DX 推進力」の強化 AI・RPA（Robotic Process Automation）をはじめとしたデジタル技術の活用等により、業務全般の継続性の確保と同時に、機能の高度化を進めるとともに、事務システムの効率化や情報セキュリティ確保の観点を含め、必要な業務運営体制を整備し、デジタル・キャンパス（スマートユニバーシティ）を推進する。	18. IT 推進力の強化 19. DX 推進力の強化 20. 情報システムの整備・情報セキュリティの強化	20. IT 推進力の強化 21. DX 推進力の強化
VIII 「組織・運営力」の強化 本学を取り巻く環境の変化や中央教育審議会の答申「我が国の『知の総和』向上の未来像～高等教育システムの再構築～」などに示される時代の要請に適切できる組織・運営基盤を確立し、マルチステークホルダーと一体感のある大学を創出する。	21. ガバナンス体制の確立とコンプライアンス徹底 22. 自己点検・評価 23. 現場力向上 24. 同窓会・父母後援会との連携 25. 創立 60 周年記念事業及び記念催事の完遂	22. 教学ガバナンス・マネジメントの実質化・最適化の推進 23. 全学的リスクマネジメントとコンプライアンスの徹底 24. 自己点検・評価の実質化と認証評価への適切な対応 25. 現場力の向上を支援する仕組みの構築・実践 26. 校友等との連携強化 27. 健康的で快適なキャンパス環境の整備

第2期中期計画（城西大学・城西国際大学比較表）

城西大学（25達成基準）		城西国際大学（27達成基準）	
I「教育力」の強化			
1. 教育の質保証の徹底 ①教育の質検証と教学マネジメント体制の整備（内部質保証の実質化と内部質保証システムの検証） ②教学マネジメントへの学生の参画推進 ③IR 機能強化 ④各学部・各研究科・全学の3ポリシーの検証 ⑤国家試験合格率の向上		1. 教育の質保証の徹底 ①大学がその教育研究活動の質を社会に対し保証するため、教学IR等を活用して、教育に関する取組を検証・評価し、継続的に教育の内部質保証を推進する。 ②大学がその教育研究活動の質を社会に対し保証するため、大学設置基準と厳選された教育プログラムに基づいた教育体制（教員数・教授数の確保・基幹教員制度の活用を含む）を強化する。	
評価指標	①大学設置基準に基づいた教員数、教授数の確保、人事規程の管理徹底 ②学生アンケートを活用した学習者本位の学びを提供(カリキュラム改正を含む) ③国家試験合格率向上：目標 薬剤師国家試験(新卒)全国平均以上 管理栄養士養成校(新卒)全国平均以上	評価指標	①教育プログラム評価方法の構築・検証及び改善状況（教育プログラム評価方法を構築し、それに基づく検証を行い、改善計画を着実に実行するサイクルを確立） ②授業評価、卒業時アンケート及び卒業生・就職先アンケートの実施状況：学生満足度（上位の評価）80%以上〔第2期中毎年度〕 ③大学設置基準等に基づいた教員数・教授数を安定的に確保できていること。
2. 教育改革（学生の能力を最大限高めるための学修者本位の教育の実現）の展開 ①全学共通基盤科目の開講 ②データサイエンスを加味した文理融合教育の確立とリベラルアーツ教育モデル策定 ③全学共通科目の一元管理と科目数の適正化 ④アクティブラーニング型授業の推進 ⑤知識に偏らない教育（課外活動、インターンシップ・ボランティア）の推進 ⑥GPA 制度の検証と活用及び学生目線に立った教育プログラムへの改善 ⑦卒業時アンケートの実施・公表・活用		2. 基盤教育の充実を核とする教育改革の展開 ①予測不可能な時代において、論理的思考力・表現力と主体的な学びの姿勢を基本とし、文化、社会、自然等に対する知識と理解を踏まえた上で、鳥瞰力、コミュニケーション力、問題発見・解決能力を養うとともに、国際的視野を育み、専門教育の基盤を確立するため、全ての学びの基礎となる基盤教育を充実する。	
評価指標	①数理データサイエンス・AIプログラムの全学生の履修 ②全学共通科目の一元管理の徹底 ③全学共通科目数の適正化：目標3割削減	評価指標	①現代社会の求める新たなリテラシー（数理・データサイエンス、情報科学、批判的思考、デザイン思考等）、STEAM教育、外国語教育、SDGs教育等の教育内容の体系化（カリキュラムマップに位置付け） ②1年次学生の英語外部試験の状況：2回目の平均得点が1回目より5%以上上昇〔第2期中の平均〕 ③「数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度（リテラシーレベル・応用基礎レベル）」の認

④卒業時アンケートの実施・公表・活用：アンケート実施率目標 90%	定取得の活用により、全学的にデータサイエンスの素養を身に付けた人財を養成できていること。				
3. 時代に即した大学院・学部教育への変換 ①組織変更・定員の適正化 ウェルビーイングや Society 5.0 の課題に挑む人財を育成する組織（学部・大学院）の新設・改廃の実施、大学全体の収容定員の適正化を、大学院を含め検討 ②社会人教育 社会人対象のリスクリング、学び直しへの対応、リカレント教育講座の提供 <table border="1" data-bbox="159 835 791 1124"> <tr> <td>評価指標</td><td> ①経営学研究科博士後期課程の完成 ②理学部情報数理学科の定員増：60 名から 80 名へ ③薬学部薬学科入学定員の適正化：250 名から 200 名へ ④リカレント教育講座履修者：目標 50 名 </td></tr> </table> 4. 学修環境の整備 ①学生の意見を取り入れた学習環境の提供 ②学生の学ぶ意欲を高めるための学習環境の整備（図書館の効率的な活用、スポーツ施設・課外活動施設の充実、キャンパスバリアフリー化及び通信環境整備） ③川角駅学園口周辺道路整備事業の推進 ④理学部情報数理学科開設に伴う紀尾井町 3 号棟増築	評価指標	①経営学研究科博士後期課程の完成 ②理学部情報数理学科の定員増：60 名から 80 名へ ③薬学部薬学科入学定員の適正化：250 名から 200 名へ ④リカレント教育講座履修者：目標 50 名	3. 時代に即した質の高い学士課程教育及び大学院教育の展開 ①新しい時代のニーズに対応した大学教育を実現するため、本学の強みを活かした学士課程教育及び大学院教育に注力する。 ②大学をめぐる環境を踏まえた教育研究組織の不断の点検・変革を実行する。 <table border="1" data-bbox="834 629 1497 1541"> <tr> <td>評価指標</td><td> ①カリキュラム改革に基づく科目の厳選：科目数 25%減、非常勤講師数の削減 50%減 [第 2 期終了時] ※第 1 期実績：科目数 1598 科目、非常勤講師数 243 人 ②国家試験合格率の高位安定化：薬剤師 80%、看護師 95%、理学療法士 90% [第 2 期中平均] ※第 1 期中平均：薬剤師 59.47%、看護師 97.18%、理学療法士 85.6% ③本学修士課程の社会人入学者の増加：第 2 期の平均入学者数が第 1 期より増加 ※2024 年度実績 社会人入学者数：10 人 ④学部担当教員の大学院兼担率の向上：70% 以上 [第 2 期終了時] ※第 1 期実績 大学院兼担率：57.8% ⑤異分野複数教員による研究指導を受けた学生の割合：ビジネス系学生の 30%以上 [第 2 期中平均] </td></tr> </table> 4. より質の高い教育研究活動の実現を目指した学修環境の整備 ①学生の自律的な学修の深化を目指して、教育 DX を推進し、学生の学ぶ意欲を刺激する授業運営を充実させ、学生の能動的な学修を促す環境を整備する。	評価指標	①カリキュラム改革に基づく科目の厳選：科目数 25%減、非常勤講師数の削減 50%減 [第 2 期終了時] ※第 1 期実績：科目数 1598 科目、非常勤講師数 243 人 ②国家試験合格率の高位安定化：薬剤師 80%、看護師 95%、理学療法士 90% [第 2 期中平均] ※第 1 期中平均：薬剤師 59.47%、看護師 97.18%、理学療法士 85.6% ③本学修士課程の社会人入学者の増加：第 2 期の平均入学者数が第 1 期より増加 ※2024 年度実績 社会人入学者数：10 人 ④学部担当教員の大学院兼担率の向上：70% 以上 [第 2 期終了時] ※第 1 期実績 大学院兼担率：57.8% ⑤異分野複数教員による研究指導を受けた学生の割合：ビジネス系学生の 30%以上 [第 2 期中平均]
評価指標	①経営学研究科博士後期課程の完成 ②理学部情報数理学科の定員増：60 名から 80 名へ ③薬学部薬学科入学定員の適正化：250 名から 200 名へ ④リカレント教育講座履修者：目標 50 名				
評価指標	①カリキュラム改革に基づく科目の厳選：科目数 25%減、非常勤講師数の削減 50%減 [第 2 期終了時] ※第 1 期実績：科目数 1598 科目、非常勤講師数 243 人 ②国家試験合格率の高位安定化：薬剤師 80%、看護師 95%、理学療法士 90% [第 2 期中平均] ※第 1 期中平均：薬剤師 59.47%、看護師 97.18%、理学療法士 85.6% ③本学修士課程の社会人入学者の増加：第 2 期の平均入学者数が第 1 期より増加 ※2024 年度実績 社会人入学者数：10 人 ④学部担当教員の大学院兼担率の向上：70% 以上 [第 2 期終了時] ※第 1 期実績 大学院兼担率：57.8% ⑤異分野複数教員による研究指導を受けた学生の割合：ビジネス系学生の 30%以上 [第 2 期中平均]				

<table border="1"> <tr> <td data-bbox="145 203 312 349">評価指標</td><td data-bbox="312 203 791 349"> ①学生の図書館利用率：目標 50% ②学生のスポーツ施設利用率：目標 30% ③教室の Wi-Fi 設置率：目標 100% </td></tr> </table>	評価指標	① 学生の図書館利用率：目標 50% ② 学生のスポーツ施設利用率：目標 30% ③ 教室の Wi-Fi 設置率：目標 100%	<table border="1"> <tr> <td data-bbox="820 203 971 779">評価指標</td><td data-bbox="971 203 1487 779"> ①アクティブラーニング型授業の実施割合：全授業の 60%以上で実施 [第 2 期終了時] ②学内外協働教育の実施状況：PBL 型授業・プログラムの増加 [第 2 期終了時] ③高度な教育 DX により学修効果を高める授業科目の開講（現行授業科目の再開発を含む。）：各学部・学科 2 科目以上 [第 2 期終了時] ④ラーニングコモンズ稼働率の向上：年間利用者 18,000 人以上 [第 2 期終了時] ※2023 年度実績：年間 16,308 人(東京紀尾井町 C を含む) </td></tr> </table>	評価指標	① アクティブラーニング型授業の実施割合：全授業の 60%以上で実施 [第 2 期終了時] ② 学内外協働教育の実施状況：PBL 型授業・プログラムの増加 [第 2 期終了時] ③ 高度な教育 DX により学修効果を高める授業科目の開講（現行授業科目の再開発を含む。）：各学部・学科 2 科目以上 [第 2 期終了時] ④ ラーニングコモンズ稼働率の向上：年間利用者 18,000 人以上 [第 2 期終了時] ※2023 年度実績：年間 16,308 人(東京紀尾井町 C を含む)
評価指標	① 学生の図書館利用率：目標 50% ② 学生のスポーツ施設利用率：目標 30% ③ 教室の Wi-Fi 設置率：目標 100%				
評価指標	① アクティブラーニング型授業の実施割合：全授業の 60%以上で実施 [第 2 期終了時] ② 学内外協働教育の実施状況：PBL 型授業・プログラムの増加 [第 2 期終了時] ③ 高度な教育 DX により学修効果を高める授業科目の開講（現行授業科目の再開発を含む。）：各学部・学科 2 科目以上 [第 2 期終了時] ④ ラーニングコモンズ稼働率の向上：年間利用者 18,000 人以上 [第 2 期終了時] ※2023 年度実績：年間 16,308 人(東京紀尾井町 C を含む)				
II. 「学生支援力、就職・進学支援力」の強化					
5. 修学支援の充実（障がい学生支援含む） ①奨学金制度・学納金減免制度の検証と改善 ②教職員が連携した、学生相談体制及び学修指導体制の整備 ③障がい学生に配慮した学習環境の整備 ④学生のウェルビーイングの推進 <table border="1"> <tr> <td data-bbox="145 1234 312 1525">評価指標</td><td data-bbox="312 1234 791 1525"> ①高等教育の修学支援新制度について、制度の適切性を確保し支援状況の公開を実施 ②出席状況及び成績評価（GPA）等を勘案した留学生授業料減免制度の適正化 ③学生相談室の充実（相談員のスキルアップと増員） </td></tr> </table> 6. 正課外教育の推進 ①クラブ、サークル、ボランティア活動、地域貢献活動等へのサポート体制の充実 ②正課外活動の安心・安全を確保し法令順守への取組強化 ③課外活動活性化及び活動参加率の向上	評価指標	① 高等教育の修学支援新制度について、制度の適切性を確保し支援状況の公開を実施 ② 出席状況及び成績評価（GPA）等を勘案した留学生授業料減免制度の適正化 ③ 学生相談室の充実（相談員のスキルアップと増員）	5. 修学支援の充実 ①充実した学生生活の実現を図るとともに、本学の「建学の精神」や「教育の理念」の発信者として活躍し得る人財を育成するため、学生への経済的支援制度を再構築し、総合的な学生支援体制を強化する。 ②学生が安全で健康なキャンパスライフを送ることができる体制を強化するため、ハラスメント対策の徹底、メンタルケアの充実及び学生の多様性に配慮した学修環境の整備を推進する。 <table border="1"> <tr> <td data-bbox="820 1234 971 1615">評価指標</td><td data-bbox="971 1234 1487 1615"> ①本学独自の奨学金を含め学生支援体制を第 2 期最終年度までに拡充 ②アドバイザー制度に対する学生の満足度：第 1 期に比して大幅に向上 ③障がい学生が学びやすい環境の整備：第 1 期に比して大幅に向上 ④学生の多様性への配慮に係るセミナーの参加率：80%以上 [第 2 期終了時] </td></tr> </table> 6. 正課外活動の準正課教育への転換 ①新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向けて、正課教育を補完するものとしていた正課外活動の意義を積極的に捉え直し、大学が関与する準正課活動を準正課教育（大学が所掌する正式プログラムとして位置付け）として強化する。	評価指標	① 本学独自の奨学金を含め学生支援体制を第 2 期最終年度までに拡充 ② アドバイザー制度に対する学生の満足度：第 1 期に比して大幅に向上 ③ 障がい学生が学びやすい環境の整備：第 1 期に比して大幅に向上 ④ 学生の多様性への配慮に係るセミナーの参加率：80%以上 [第 2 期終了時]
評価指標	① 高等教育の修学支援新制度について、制度の適切性を確保し支援状況の公開を実施 ② 出席状況及び成績評価（GPA）等を勘案した留学生授業料減免制度の適正化 ③ 学生相談室の充実（相談員のスキルアップと増員）				
評価指標	① 本学独自の奨学金を含め学生支援体制を第 2 期最終年度までに拡充 ② アドバイザー制度に対する学生の満足度：第 1 期に比して大幅に向上 ③ 障がい学生が学びやすい環境の整備：第 1 期に比して大幅に向上 ④ 学生の多様性への配慮に係るセミナーの参加率：80%以上 [第 2 期終了時]				

<table border="1"> <tr> <td data-bbox="145 208 292 400">評価指標</td><td data-bbox="292 208 807 400"> ①クラブ・サークル活動の管理・運営に関するガイドラインの作成 ②課外活動活性化及び活動参加率向上：目標 50% </td></tr> </table>	評価指標	① クラブ・サークル活動の管理・運営に関するガイドラインの作成 ② 課外活動活性化及び活動参加率向上：目標 50%	<table border="1"> <tr> <td data-bbox="807 208 970 400">評価指標</td><td data-bbox="970 208 1487 400"> ①準正課活動の準正課教育の質保証サイクルへの統合 ②学業とスポーツ活動の両立に関わる検証を可能とする体制の整備 </td></tr> </table>	評価指標	① 準正課活動の準正課教育の質保証サイクルへの統合 ② 学業とスポーツ活動の両立に関わる検証を可能とする体制の整備
評価指標	① クラブ・サークル活動の管理・運営に関するガイドラインの作成 ② 課外活動活性化及び活動参加率向上：目標 50%				
評価指標	① 準正課活動の準正課教育の質保証サイクルへの統合 ② 学業とスポーツ活動の両立に関わる検証を可能とする体制の整備				
7. 退学・休学の防止 ①学生目線の入学前教育、新入生オリエンテーション及び初年次教育の充実 ②退学者予備軍（出席が芳しくない学生、休学者等）の早期発見と教職員が連携したサポート体制の強化 ③退学者防止委員会を設置し、休退学の真因を把握・分析し対策を講ずる体制整備 <table border="1"> <tr> <td data-bbox="145 848 292 1041">評価指標</td><td data-bbox="292 848 807 1041"> ①退学者防止委員会の設置 ②出席が芳しくない学生への個別面談及び父母への連絡を全学標準化 ③退学率目標 2%台、休学者目標 1%台 </td></tr> </table>	評価指標	① 退学者防止委員会の設置 ② 出席が芳しくない学生への個別面談及び父母への連絡を全学標準化 ③ 退学率目標 2%台、休学者目標 1%台	7. 退学・休学の防止対策の徹底 ①離学者の抑制に重要な問題（学生が大学に満足していない、学生自身のキャリアに及ぼす影響、大学のイメージ低下、大学の経営圧迫等）が内在していることを踏まえ、離学（退学・休学・留年）の真因を定期的に把握・分析し、その低減対策を着実に実行する。 <table border="1"> <tr> <td data-bbox="807 752 970 1189">評価指標</td><td data-bbox="970 752 1487 1189"> ①学生の中途退学者の割合：日本の全大学平均値である 2.04%以下〔第 2 期終了時〕 ※2023 年度実績：2.65% ②学生の休学者の割合：2.69%以下〔第 2 期終了時〕 ※2023 年度実績：1.78% ③学生の留年者の割合：18.4%以下〔第 2 期終了時〕 ※2023 年度実績：3.05% </td></tr> </table>	評価指標	① 学生の中途退学者の割合：日本の全大学平均値である 2.04%以下〔第 2 期終了時〕 ※2023 年度実績：2.65% ② 学生の休学者の割合：2.69%以下〔第 2 期終了時〕 ※2023 年度実績：1.78% ③ 学生の留年者の割合：18.4%以下〔第 2 期終了時〕 ※2023 年度実績：3.05%
評価指標	① 退学者防止委員会の設置 ② 出席が芳しくない学生への個別面談及び父母への連絡を全学標準化 ③ 退学率目標 2%台、休学者目標 1%台				
評価指標	① 学生の中途退学者の割合：日本の全大学平均値である 2.04%以下〔第 2 期終了時〕 ※2023 年度実績：2.65% ② 学生の休学者の割合：2.69%以下〔第 2 期終了時〕 ※2023 年度実績：1.78% ③ 学生の留年者の割合：18.4%以下〔第 2 期終了時〕 ※2023 年度実績：3.05%				
8. キャリア教育及び就職・進学支援の充実 ①キャリアデザインポリシーのもと、キャリア教育、キャリア支援の充実を図る ②社会の動向や学生ニーズを捉え、学生の希望・能力・個性に応じたキャリア支援体制整備 ③障がい学生のキャリア支援強化 ④外国人留学生及び多様性に応じたキャリア形成・キャリア支援 ⑤学部・研究科就職率の向上 <table border="1"> <tr> <td data-bbox="145 1682 292 1778">評価指標</td><td data-bbox="292 1682 807 1778"> ①就職率目標：各学部 95%以上、各研究科 95%以上 </td></tr> </table>	評価指標	① 就職率目標：各学部 95%以上、各研究科 95%以上	8. 就職・進学支援及びキャリア教育の充実 ①学生一人ひとりの希望・能力・個性に応じた就職・進学支援を行うため、就職・進学支援体制を抜本的に見直し、キャリア形成プログラム（入口）、社会経済情勢に適合した就職支援（出口）及び大学院進学に関する多面的支援（出口）を展開・充実する。 <table border="1"> <tr> <td data-bbox="807 1525 970 2013">評価指標</td><td data-bbox="970 1525 1487 2013"> ①大学等が実施したキャリア形成支援活動への参加学生数：1,300 人〔第 2 期終了時〕 ※2023 年度実績：1,237 人 ②就職希望の学生が就職する割合：98%〔第 2 期終了時〕 ※2023 年度実績：97.6% ③卒業生の活躍の状況：雇用主からの肯定的評価の割合の向上 ④学部学生の大学院（修士課程）への進学率：2%〔第 2 期終了時〕 </td></tr> </table>	評価指標	① 大学等が実施したキャリア形成支援活動への参加学生数：1,300 人〔第 2 期終了時〕 ※2023 年度実績：1,237 人 ② 就職希望の学生が就職する割合：98%〔第 2 期終了時〕 ※2023 年度実績：97.6% ③ 卒業生の活躍の状況：雇用主からの肯定的評価の割合の向上 ④ 学部学生の大学院（修士課程）への進学率：2%〔第 2 期終了時〕
評価指標	① 就職率目標：各学部 95%以上、各研究科 95%以上				
評価指標	① 大学等が実施したキャリア形成支援活動への参加学生数：1,300 人〔第 2 期終了時〕 ※2023 年度実績：1,237 人 ② 就職希望の学生が就職する割合：98%〔第 2 期終了時〕 ※2023 年度実績：97.6% ③ 卒業生の活躍の状況：雇用主からの肯定的評価の割合の向上 ④ 学部学生の大学院（修士課程）への進学率：2%〔第 2 期終了時〕				

	※2023 年度実績：0.7% ⑤修士課程修了者の博士課程への進学率： 5% [第2期終了時]						
III. 「ブランド力・学生募集力」の強化							
9. 大学ブランド力の強化 ①本学の強みを活かした魅力ある大学像の発信 ②ステークホルダーから選ばれる大学ブランドの構築 ③教育研究能力の向上と社会への発信 ④大学情報の SNS での発信強化 <table border="1" data-bbox="159 725 805 875"> <tr> <td>評価指標</td><td> ①地域資源を活用したブランド商品の開発：目標 5 件以上 ②大学情報の SNS 発信強化 目標：50%増 </td></tr> </table> 10. 学生の受入れと学生募集力の向上 ①高大連携事業の推進 ②オープンキャンパスの集客を高めるための取り組み強化 ③学生ニーズに合致した募集活動の推進（高校生の心をつかむ学生募集広報及びデジタルマーケティングの強化） ④女子学生及び埼玉県内の学生確保のための施策の構築 ⑤全学部入学定員確保、大学院入学者増 <table border="1" data-bbox="159 1323 805 1563"> <tr> <td>評価指標</td><td> ①オープンキャンパス集客率：目標 20%増 ②女子学生比率増：目標 10%増 ③入学者確保：目標 大学 入学定員総数確保：1,660 人 大学院 定員充足率 80%以上 </td></tr> </table>	評価指標	①地域資源を活用したブランド商品の開発：目標 5 件以上 ②大学情報の SNS 発信強化 目標：50%増	評価指標	①オープンキャンパス集客率：目標 20%増 ②女子学生比率増：目標 10%増 ③入学者確保：目標 大学 入学定員総数確保：1,660 人 大学院 定員充足率 80%以上	9. 学生の受入れと学生募集力の向上 ①中期的に安定して「入学者数/入学定員」と「在籍学生数/収容定員」を 1.00 とすることを目指して、これまでの取組を刷新し、今実施すべき学生募集戦略を策定の上、本学独自の特徴を打ち出した学生募集活動を徹底する。 <table border="1" data-bbox="834 1189 1481 1671"> <tr> <td>評価指標</td><td> ①入学定員充足率：大学全体 90%以上、学部・学科単位 85%以上必達 [第2期終了時] ※2023 年度実績：大学全体 83%、学部・学科単位 85%以上(4 学部学科) ②オープンキャンパス参加者数：第1期に比して 300 人増、受験実績は第1期に比して 20% 増 [第2期終了時] ※2023 年度実績：参加者数 2,721 人、受験実績 46.2%) </td></tr> </table> 10. アドミッション・ポリシーと受験者ニーズに基づいた入試への改善 ①アドミッション・ポリシーに定めた資質・能力を有する学生を受け入れるため、学力と資質との関係を検証し、入学者選抜の不断の見直しを行う。	評価指標	①入学定員充足率：大学全体 90%以上、学部・学科単位 85%以上必達 [第2期終了時] ※2023 年度実績：大学全体 83%、学部・学科単位 85%以上(4 学部学科) ②オープンキャンパス参加者数：第1期に比して 300 人増、受験実績は第1期に比して 20% 増 [第2期終了時] ※2023 年度実績：参加者数 2,721 人、受験実績 46.2%)
評価指標	①地域資源を活用したブランド商品の開発：目標 5 件以上 ②大学情報の SNS 発信強化 目標：50%増						
評価指標	①オープンキャンパス集客率：目標 20%増 ②女子学生比率増：目標 10%増 ③入学者確保：目標 大学 入学定員総数確保：1,660 人 大学院 定員充足率 80%以上						
評価指標	①入学定員充足率：大学全体 90%以上、学部・学科単位 85%以上必達 [第2期終了時] ※2023 年度実績：大学全体 83%、学部・学科単位 85%以上(4 学部学科) ②オープンキャンパス参加者数：第1期に比して 300 人増、受験実績は第1期に比して 20% 増 [第2期終了時] ※2023 年度実績：参加者数 2,721 人、受験実績 46.2%)						

	<table border="1"> <tr> <td data-bbox="831 226 967 607">評価指標</td><td data-bbox="967 226 1485 607"> ①入試の実施状況や入学後の学修状況等の総合的検証、各学部教育目標に沿った入試の見直しの実施 ②収容定員充足率：大学全体：90%以上、学部・学科単位 80%以上必達 [第 2 期終了時] ※2023 年度実績：大学全体：91%、学科単位 85%以上（6 学科） </td></tr> </table> 11. JIU の総合価値の向上及び情報発信 ①大学をめぐる社会経済環境が日々変化する中、大学の持続的成長を目指した「大学価値の向上」を図るため、「建学の精神」と「教育の理念」を更に具現化し、多様な情報発信機能を活用して戦略的・効果的な情報発信力を強化する。 <table border="1"> <tr> <td data-bbox="831 913 967 1294">評価指標</td><td data-bbox="967 913 1485 1294"> ①Instagram のフォロワー数：第 1 期終了時に比して 300%増 [第 2 期終了時] ※2023 年度実績：974 件 ②HP 閲覧数：2024 年度比で 30%増 [第 2 期終了時] ※2024 年度実績：733,020 件 ③シンポジウム等開催件数及び総参加者数：第 1 期の実績以上 [第 2 期終了時] </td></tr> </table>	評価指標	①入試の実施状況や入学後の学修状況等の総合的検証、各学部教育目標に沿った入試の見直しの実施 ②収容定員充足率：大学全体：90%以上、学部・学科単位 80%以上必達 [第 2 期終了時] ※2023 年度実績：大学全体：91%、学科単位 85%以上（6 学科）	評価指標	①Instagram のフォロワー数：第 1 期終了時に比して 300%増 [第 2 期終了時] ※2023 年度実績：974 件 ②HP 閲覧数：2024 年度比で 30%増 [第 2 期終了時] ※2024 年度実績：733,020 件 ③シンポジウム等開催件数及び総参加者数：第 1 期の実績以上 [第 2 期終了時]
評価指標	①入試の実施状況や入学後の学修状況等の総合的検証、各学部教育目標に沿った入試の見直しの実施 ②収容定員充足率：大学全体：90%以上、学部・学科単位 80%以上必達 [第 2 期終了時] ※2023 年度実績：大学全体：91%、学科単位 85%以上（6 学科）				
評価指標	①Instagram のフォロワー数：第 1 期終了時に比して 300%増 [第 2 期終了時] ※2023 年度実績：974 件 ②HP 閲覧数：2024 年度比で 30%増 [第 2 期終了時] ※2024 年度実績：733,020 件 ③シンポジウム等開催件数及び総参加者数：第 1 期の実績以上 [第 2 期終了時]				
IV. 「国際力」の強化					
11. 国際交流基盤強化と支援体制の確立 ①海外の高等教育研究機関との連携・協力体制の推進 ②海外協定校の見直し ③国際交流支援体制の構築 ④学生と協同したキャンパス内の国際交流の推進 ⑤国際部の機能強化 ⑥別科の日本語教育機関への認定を検討 <table border="1"> <tr> <td data-bbox="161 1798 296 1944">評価指標</td><td data-bbox="296 1798 807 1944"> ①城西「ファン」の留学生ネットワーク構築 ②国際業務において高度で専門的な知見を有する職員の育成・確保 </td></tr> </table>	評価指標	①城西「ファン」の留学生ネットワーク構築 ②国際業務において高度で専門的な知見を有する職員の育成・確保	12. 国際社会への貢献に向けた基盤強化 ①学術研究の高度化と多様な教育機会を創出するため、海外の大学・研究機関と組織的に連携・協力し、包括的国際化推進体制を強化する。 <table border="1"> <tr> <td data-bbox="831 1659 967 1989">評価指標</td><td data-bbox="967 1659 1485 1989"> ①国際ネットワークの強化：第 1 期に比して格段に向上 ②外国人留学生からの納付金等の帰属収入（減免措置の廃止を含む。）の大幅増加 ③世界大学ランキングの向上 ④学内におけるグローバル関連教育・研究プログラムの参加者数：年間 800 人 </td></tr> </table>	評価指標	①国際ネットワークの強化：第 1 期に比して格段に向上 ②外国人留学生からの納付金等の帰属収入（減免措置の廃止を含む。）の大幅増加 ③世界大学ランキングの向上 ④学内におけるグローバル関連教育・研究プログラムの参加者数：年間 800 人
評価指標	①城西「ファン」の留学生ネットワーク構築 ②国際業務において高度で専門的な知見を有する職員の育成・確保				
評価指標	①国際ネットワークの強化：第 1 期に比して格段に向上 ②外国人留学生からの納付金等の帰属収入（減免措置の廃止を含む。）の大幅増加 ③世界大学ランキングの向上 ④学内におけるグローバル関連教育・研究プログラムの参加者数：年間 800 人				

12. 外国人留学生の受け入れと就学環境整備

- ①外国人留学生の戦略的なリクルーティングと本学独自の奨学金制度の検討・充実
- ②外国人留学生受け入れ体制の整備と募集・在籍管理体制強化
- ③在籍学生総数に占める外国人留学生数(非正規生含む) 目標値 10%確保
- ④別科から学部、大学院への進学ルートの確立

評価指標

- ①秋入学定員の設置届出
- ②在籍学生総数に占める外国人留学生数増：目標 10%以上
- ③別科から学部、大学院への進学者：目標 10 名以上

13. 在学生の海外留学促進

- ①AI を活用した語学教育や教育の国際化を推進
- ②留学機運の醸成と安心して留学にチャレンジできる環境整備
- ③海外留学・海外インターンシップの促進体制の更なる整備
- ④海外留学者数増を目指す

評価指標

- ①海外留学者数増：目標 長期留学 10 名以上、短期留学 130 名以上

13. 外国人留学生の戦略的受入れと就学環境の整備

- ①優秀な外国人留学生の戦略的な獲得を目指し、現在の就学環境の点検・整備を踏まえた社会経済情勢に適合した外国人留学生受入れ戦略（重点的地域や分野・新規教育プログラム等を含む。）を策定し、組織的なリクルーティング活動を展開する。

評価指標

- ①第2期中に通年での外国人留学者受入れ数：1,500 人
※2023 年度実績（548 人）
- ②外国語で開講する科目数の拡充：70 科目以上
- ③外国人留学生の卒業・修了後の本国における外国人留学生同窓会の会員数：1,000 人以上

14. 本学学生の海外留学と国際体験の促進

- ①国際的な視野を持ち指導的な役割を果たすグローバル人材を育成するため、協定校交換留学プログラム・短期海外研修プログラム等を効果的に実施し、海外留学・インターンシップの促進体制を更に整備して、グローバルな修学環境を醸成する。

評価指標

- ①第2期中に通年での海外留学体験学生数：1,000 人
- ②国際共修型授業の実践率：全学部生の 30%

V. 「研究力」の強化**14. 国際的研究成果の創出・発信と外部資金獲得の向上**

- ①各分野をリードする研究成果の創出
- ②地域課題を解決する研究成果の創出と国内外への発信強化
- ③外部研究資金の募集情報の提供と申請サポート等、応募者への支援体制整備
- ④科研費補助金助成事業、共同研究、受託研究等の外部資金等の採択数増

評価指標

- ①公表論文、学会発表の件数増加：目標 30% 増
- ②研究倫理 e-learning「eL CoRE」受講の徹底：基幹教員受講率目標 100%
- ③外部資金獲得の向上：目標 20%増

15. 研究費の管理運営体制整備**15. 研究成果の創出と発信**

- ①各分野の学会をリードし、社会の諸課題を解決する研究成果の創出を目指し、総合大学としての多様な研究力を引き出す研究環境・学際的協力関係を整備し、独創研究へのチャレンジを促進する。

評価指標

- ①「researchmap」の登録率：95%以上
※2024 年度実績（88.3%）
- ②査読論文・学会発表の件数：第1期中の実績に比して 50%増
- ③研究情報の一元化及び体系的な成果発信：年間 5 件以上

16. 研究資金力の強化

①全学的な研究支援専門部署の検討 ②研究支援マネジメント人材の育成・確保 ③公的研究費の管理運営体制及び指針・規程の見直し・整備 ④FD 研修会の実施、コンプライアンス教育及び啓蒙活動の強化 <table border="1" data-bbox="159 416 805 609"> <tr> <td>評価指標</td><td> ①研究支援部署の確立と研究支援職員の育成・確保 ②公的研究費の適切な管理運営に関する FD 実施：目標 年 2 回以上 </td></tr> </table>	評価指標	①研究支援部署の確立と研究支援職員の育成・確保 ②公的研究費の適切な管理運営に関する FD 実施：目標 年 2 回以上	①研究の質の維持・向上を図るため、基盤的研究費を確保しつつ、外部資金獲得に向けた支援体制を整備し、研究サポート経費（配分最適化・拡充等を含む。）の調達法について検討する。 <table border="1" data-bbox="833 349 1484 640"> <tr> <td>評価指標</td><td> ①科研費申請件数・採択件数：それぞれ 110 件、35 件 ※2024 年度実績（申請 92 件・採択 11 件） ②科研費の受入れ件数：2024 年度比で 20% 増 </td></tr> </table>	評価指標	①科研費申請件数・採択件数：それぞれ 110 件、35 件 ※2024 年度実績（申請 92 件・採択 11 件） ②科研費の受入れ件数：2024 年度比で 20% 増
評価指標	①研究支援部署の確立と研究支援職員の育成・確保 ②公的研究費の適切な管理運営に関する FD 実施：目標 年 2 回以上				
評価指標	①科研費申請件数・採択件数：それぞれ 110 件、35 件 ※2024 年度実績（申請 92 件・採択 11 件） ②科研費の受入れ件数：2024 年度比で 20% 増				
VI. 「地域連携・社会貢献力」の強化					
16. 地域連携活動推進と地域人材育成並びに教育研究成果の地域への還元 ①大学リソースを活用した地域貢献 ②地域が必要とする人材の育成 ③地域連携活動が持つ価値と意識の醸成 ④教育研究成果の社会への還元 <table border="1" data-bbox="159 1003 805 1290"> <tr> <td>評価指標</td><td> ①地域リソースを活用した地域ブランドの開発：目標 3 件以上 ②地域に特化したインターンシッププログラム等の開発：目標 3 件以上 ③情報数理学科と千代田区が連携した AI・DS コンソーシアム協定締結 </td></tr> </table>	評価指標	①地域リソースを活用した地域ブランドの開発：目標 3 件以上 ②地域に特化したインターンシッププログラム等の開発：目標 3 件以上 ③情報数理学科と千代田区が連携した AI・DS コンソーシアム協定締結	17. 地域創生機能の強化・教育カリキュラムの展開 ①地域資源に新たな価値を見出して地域活性化を図るため、地域ニーズの集積・分析を踏まえて、地域連携推進センターの企画機能の充実を図り、地域を教育研究ラボと見立てた教育プログラム等を展開する。 <table border="1" data-bbox="833 949 1484 1429"> <tr> <td>評価指標</td><td> ①地域の自治体・経済団体等の会議・審議会等への参画件数：第 1 期中の実績に比して 30% 増 ②公開講座の開催件数：年間 20 件 ※2023 年度実績：15 回、254 名 ③リカレント教育の修了者数：第 1 期中の実績に比して 20% 増 ※第 1 期中実績：延べ 204 人 ④地元自治体・企業等との受託研究数・共同研究数・学術指導数：第 1 期中の実績以上 </td></tr> </table>	評価指標	①地域の自治体・経済団体等の会議・審議会等への参画件数：第 1 期中の実績に比して 30% 増 ②公開講座の開催件数：年間 20 件 ※2023 年度実績：15 回、254 名 ③リカレント教育の修了者数：第 1 期中の実績に比して 20% 増 ※第 1 期中実績：延べ 204 人 ④地元自治体・企業等との受託研究数・共同研究数・学術指導数：第 1 期中の実績以上
評価指標	①地域リソースを活用した地域ブランドの開発：目標 3 件以上 ②地域に特化したインターンシッププログラム等の開発：目標 3 件以上 ③情報数理学科と千代田区が連携した AI・DS コンソーシアム協定締結				
評価指標	①地域の自治体・経済団体等の会議・審議会等への参画件数：第 1 期中の実績に比して 30% 増 ②公開講座の開催件数：年間 20 件 ※2023 年度実績：15 回、254 名 ③リカレント教育の修了者数：第 1 期中の実績に比して 20% 増 ※第 1 期中実績：延べ 204 人 ④地元自治体・企業等との受託研究数・共同研究数・学術指導数：第 1 期中の実績以上				
17. 産学官連携による地域社会・地域産業の課題解決への寄与 ①持続可能な地域協創のための産学官金連携の構築 ②地域ニーズと大学シーズのマッチング ③関東圏での共同研究・受託研究の拡大 ④産学官連携プラットフォーム（TJUP 等）を活用した地域課題解決への寄与 ⑤産学官金連携対応事務部門の確立	18. 産学官連携による地域社会・地域産業の課題解決等への寄与 ①イノベーションの創出と社会課題の解決のため、産学官金「連」協働室の連結機能を基軸とする多様な産学官金連携の枠組みや各機関との連携協定等を活用した社会の課題解決に向けた共創協力及びユニバーシティ・エンゲージメント強化を推進する。				

<table border="1"> <tr> <td data-bbox="145 203 292 398">評価指標</td><td data-bbox="292 203 807 398"> ①地域課題解決のための指針・プログラムの提案： 目標 2 件以上 ②関東圏での共同研究・受託研究の拡大： 目標 2 件以上 </td></tr> </table>	評価指標	①地域課題解決のための指針・プログラムの提案： 目標 2 件以上 ②関東圏での共同研究・受託研究の拡大： 目標 2 件以上	<table border="1"> <tr> <td data-bbox="807 203 970 495">評価指標</td><td data-bbox="970 203 1485 495"> ①産学官金「連」協働室による連携・共創事業の進行：10 件 [第 2 期終了時] ②受託研究数・共同研究数・寄附講座数：第 1 期中の実績以上 ③産学官金連携・共創参画教員数：延べ 100 人以上 [第 2 期終了時] </td></tr> </table> 19. 教育研究成果の地域還元 ①社会に開かれた大学としての責務を果たすために、本学の教育研究の成果を多様な形で社会に還元し、学内外施設等を活用して教育研究成果を発信し、さらに本学のノウハウ等を活用した多面的な活動を展開する。 <table border="1"> <tr> <td data-bbox="807 813 970 1149">評価指標</td><td data-bbox="970 813 1485 1149"> ①学内外の施設等を活用したシンポジウム、公開講座、展覧会等開催回数：年間 50 回以上 [第 2 期終了時] ②公開講座・市民未来大学における募集人員を超える応募者数の安定的確保 ③公開講座・市民未来大学の受講者の満足度：75%以上 [第 2 期終了時] </td></tr> </table>	評価指標	①産学官金「連」協働室による連携・共創事業の進行： 10 件 [第 2 期終了時] ②受託研究数・共同研究数・寄附講座数： 第 1 期中の実績以上 ③産学官金連携・共創参画教員数： 延べ 100 人以上 [第 2 期終了時]	評価指標	①学内外の施設等を活用したシンポジウム、公開講座、展覧会等開催回数： 年間 50 回以上 [第 2 期終了時] ②公開講座・市民未来大学における募集人員を超える応募者数の安定的確保 ③公開講座・市民未来大学の受講者の満足度： 75%以上 [第 2 期終了時]
評価指標	①地域課題解決のための指針・プログラムの提案： 目標 2 件以上 ②関東圏での共同研究・受託研究の拡大： 目標 2 件以上						
評価指標	①産学官金「連」協働室による連携・共創事業の進行： 10 件 [第 2 期終了時] ②受託研究数・共同研究数・寄附講座数： 第 1 期中の実績以上 ③産学官金連携・共創参画教員数： 延べ 100 人以上 [第 2 期終了時]						
評価指標	①学内外の施設等を活用したシンポジウム、公開講座、展覧会等開催回数： 年間 50 回以上 [第 2 期終了時] ②公開講座・市民未来大学における募集人員を超える応募者数の安定的確保 ③公開講座・市民未来大学の受講者の満足度： 75%以上 [第 2 期終了時]						
VII. 「IT・DX 推進力」の強化							
18. IT 推進力の強化 ①IT システム強化と利用促進 ②IT 推進に必要な人材の育成・確保 ③IT システムに対応するネットワーク環境の見直し <table border="1"> <tr> <td data-bbox="145 1514 292 1709">評価指標</td><td data-bbox="292 1514 807 1709"> ①情報に関する知見や活用技術を備えた職員の確保・育成 ②無線 LAN 環境整備 ③学内 LAN 主要機器更新 </td></tr> </table>	評価指標	①情報に関する知見や活用技術を備えた職員の確保・育成 ②無線 LAN 環境整備 ③学内 LAN 主要機器更新	20. IT 推進力の強化 ①様々な業務作業に伴う現場担当者の負担軽減を図るため、デジタル技術を活用して業務の最適化・効率化を推進する。 <table border="1"> <tr> <td data-bbox="807 1406 970 1697">評価指標</td><td data-bbox="970 1406 1485 1697"> ①情報に関する知見や活用技術を備えた職員の確保・育成体制の構築と戦略的な人財配置の実施 ②業務デジタル化プランの策定とその達成状況 ③電子決裁普及率、電子文書保存率：それぞれ 50%、80% </td></tr> </table> ②情報セキュリティの向上のため情報基盤システムを維持・強化し、運用管理体制を整備・強化する。	評価指標	①情報に関する知見や活用技術を備えた職員の確保・育成体制の構築と戦略的な人財配置の実施 ②業務デジタル化プランの策定とその達成状況 ③電子決裁普及率、電子文書保存率： それぞれ 50%、80%		
評価指標	①情報に関する知見や活用技術を備えた職員の確保・育成 ②無線 LAN 環境整備 ③学内 LAN 主要機器更新						
評価指標	①情報に関する知見や活用技術を備えた職員の確保・育成体制の構築と戦略的な人財配置の実施 ②業務デジタル化プランの策定とその達成状況 ③電子決裁普及率、電子文書保存率： それぞれ 50%、80%						

19. DX 推進力の強化

- ①業務の DX 化推進
- ②DX 推進に必要な人材育成・確保
- ③各部署の DX 化業務推進内容とシステムを把握する仕組み確立
- ④生成 AI 活用のための環境整備

評価指標	①FAQ 環境整備 ②組織全体の DX 化を推進するための職員の確保・育成 ③生成 AI 活用講座等の受講を促進し、全ての職員が生成 AI を活用し業務の効率化と生産性を向上
------	--

20. 情報システムの整備・情報セキュリティの強化

- ①授業方針・教育環境に対応できるシステムの導入
- ②ICT 教育、オンライン授業の環境の整備
- ③紀尾井町を含む、JIU とのネットワーク環境の整備
- ④SSO 運用（ID 管理の一元化）整備
- ⑤情報セキュリティ体制の確立と周知徹底

評価指標	①Campus-Xs と GAKUEN を比較し、教学事務システムの更新 ②オンライン授業の環境及び理解度に関する学生アンケート実施 ③情報セキュリティ研修の実施：目標 毎年度 2 回以上
------	---

評価指標	①セキュリティインシデントの未然防止及び発生時の迅速な対応が可能な体制整備の実現 ②脆弱性指標における高リスク項目を全体の 20% 以内に抑制 ③主要な情報システムのチェック実施：毎年度 1 回以上 ④情報セキュリティ注意喚起：毎年度 12 回以上 ⑤情報セキュリティ研修の実施：毎年度 1 回以上
------	--

21. DX 推進力の強化

- ①最高水準の教育の学生への提供、研究の効率化・高度化、大学運営の効率化、社会連携の強化、学生サービスの向上等を旨として、大学 DX における各領域（教育 DX、研究 DX、運営・業務 DX）にデジタル技術を導入し、変革を全学的に推進する。

評価指標	①実施計画の進捗状況（実施体制の構築、実施計画の策定及び実施計画に基づく取組の達成状況）：毎年度状況を確認 ②電子申請化及び RPA 等の自動化・電子化業務数：20 件以上 ③学生相談窓口業務のオンライン化推進状況：オンライン窓口を 10 か所以上開設 ④事務効率改善等による教職員の満足度：ES 値の向上 ⑤インターネットを活用した遠隔教育環境に係る学生の満足度：ES 値の向上
------	---

VIII. 「組織・運営力」の強化

21. ガバナンス体制の確立とコンプライアンス徹底

- ①教育・研究の質向上及び社会からの信頼を得るためのガバナンス改革
- ②組織・業務の透明性を高めるための体制整備
- ③大学の方針を構成員へ浸透させる取組強化
- ④法令順守、適正な大学運営及び社会的信頼の維持

評価指標

- ①中期計画で定めた8つの目標について、責任体制を明確にし、課題に迅速に対応できる体制整備
- ②大学の運営方針・業務運営報告等を構成員に周知・浸透させる取組：目標年4回以上
- ③大学設置基準の順守
- ④コンプライアンス違反を許さない健全な組織文化の醸成とリスクマネジメント体制の確立

22. 教学ガバナンス・マネジメントの実質化・最適化の推進

- ①大学の目的である教育、研究及び社会貢献の機能を最大化し、「攻めのガバナンス」と「守りのガバナンス」を機能させるため、学校教育法・私立学校法・私立大学ガバナンスコード等と連動して教学ガバナンスを強化する。
- ②大学の教育目的を達成するため、教学IR機能を強化・活用し、教学マネジメントを全学的に展開する。

評価指標

- ①中期計画の最終年度において外部理事及び評議員会から第1期中期計画と比して教学ガバナンス・マネジメントの実質化・効率化が進んだとの評価
- ②大学の運営方針・業務運営報告等を構成員に周知・浸透させる機会の回数（年4回以上実施）
- ③大学運営人財の計画的育成の状況（若手教員の学長特任補佐等への登用人数（第1期中の平均以上）、学長特任補佐等からの提案数（第2期中の累計で40件以上））
- ④内部統制システムのモニタリングの実施状況と是正・改善状況（モニタリングのうち、独立的評価を1回以上実施し、課題について適切に対応）
- ⑤監事意見を受けた改善等への反映状況（100%の対応実施）
- ⑥全学・学部・研究科の3ポリシーの点検及び改善に基づく大学運営の実践
- ⑦3ポリシーに沿ったカリキュラムの再編成・科目体系等の整備

23. 全学的リスクマネジメントとコンプライアンスの徹底

- ①本学で想定されるリスク（業務リスク、情報セキュリティリスク、コンプライアンスリスク、イベントリスク）の回避・低減及び危機への迅速かつ的確な対処により、大学構成員の安全確保を図るとともに、社会的な責任を果たすため、構成員一人ひとりがリスクマネージャーとしての自覚を持ち、様々なリスクに対応できる実践的なリスクマネジメント体制を確立する。

評価指標

①危機管理計画の策定・徹底

②シミュレーションに基づく実践的防災・減災訓練の実施

②本学の社会的信頼性と業務遂行の公正性の維持に資することを目的に、社会的・公共的存在としての個人及び組織のコンプライアンスの高度化を推進する。

評価指標

①コンプライアンス教育（研究費管理、研究不正、個人情報保護等）の受講率：100%

②全規程の計画的点検・見直しによる体系化

22. 自己点検・評価

①内部質保証体制の再整備

②点検・評価の結果を教育の改善・向上につなげる内部質保証システムの構築

③第3期認証評価で指摘された事項への適切な対応

④第4期認証評価への準備

評価指標

①透明性、客観性を担保した内部質保証システムの有効性の検証：目標年1回以上

②第3期認証評価で指摘された課題、指摘事項への適切な対応：2027年7月31日までに提出

③学習成果を基軸に捉えた内部質保証の重視と実質性」を問う第4期認証評価への準備

23. 現場力向上

①事務局の業務効率化と業務改善

②教職員の勤務評価制度の確立

③基幹教員制度の確立とクロスアポイントメント制度の推進

④サバティカル制度の運用

評価指標

①第3期認証評価の追評価の完遂と適合認定の確保

②中期計画に定めた評価指標等を活用した実績に基づく自己点検・評価：毎年度実施し、新たな外部評価を第2期中に少なくとも1回実施

③部局等における自己点検・評価の結果に基づく改善状況（学長による改善検討指示数に対する実施割合）：100%

24. 自己点検・評価の実質化と認証評価への適切な対応

①第3期認証評価結果に適切に対応し、第4期認証評価に向けた準備を行う。

②評価結果を活用したエビデンスベースの大学運営を実現するため、客観的データを収集・分析し、これを自己点検・評価のPDCAサイクルに活用して、改善策を見だし実施する。

25. 現場力の向上を支援する仕組みの構築・実践

①本学構成員一人ひとりの活力を相乗的に高める大学運営を確立するため、構造的かつ抜本的な業務マネジメントを再構築し実行する。

②構成員一人ひとりの活力を相乗的に高める大学運営を確立するため、人事マネジメントと組織マネジメントの体質改善を断行する。

③教育研究現場力の向上を支えるため、持続可能な教育研究体制を構築し、基幹教員制度を適切に運用する。

④教育研究現場力の向上を支えるため、持続可能な教育研究体制の構築と基幹教員制度の適切な運用を進める。

<table border="1"> <tr> <td data-bbox="156 219 295 515">評価指標</td><td data-bbox="295 219 805 515"> ①全部署での業務マニュアルの作成 ②職員勤務評価の検証と職員のモチベーションを高めるための評価方法への改善 ③教員勤務評価制度の制定に向けた、問題点の洗い出しと確立 ④クロスアポイントメント制度の実施 </td></tr> </table>	評価指標	① 全部署での業務マニュアルの作成 ② 職員勤務評価の検証と職員のモチベーションを高めるための評価方法への改善 ③ 教員勤務評価制度の制定に向けた、問題点の洗い出しと確立 ④ クロスアポイントメント制度の実施	<table border="1"> <tr> <td data-bbox="833 219 971 752">評価指標</td><td data-bbox="971 219 1482 752"> ①執行系事務の削減時間数：2024 年度比で 1 日一人当たり 1 時間以上 ②評価の賞与・昇任（降任）・昇格（降格）等への反映、職務ベースの報酬設定その他役割・活躍に応じた処遇の実現 ③学部・大学院教育体制の再編及び紀尾井町キャンパス事務部の機能化 ④経営人財の育成を目的とする研修の適格者の受講率：第 2 期中に 100% ⑤総合的な教員人事計画に基づく法令上の教員・教授数の安定的確保 </td></tr> </table>	評価指標	① 執行系事務の削減時間数：2024 年度比で 1 日一人当たり 1 時間以上 ② 評価の賞与・昇任（降任）・昇格（降格）等への反映、職務ベースの報酬設定その他役割・活躍に応じた処遇の実現 ③ 学部・大学院教育体制の再編及び紀尾井町キャンパス事務部の機能化 ④ 経営人財の育成を目的とする研修の適格者の受講率：第 2 期中に 100% ⑤ 総合的な教員人事計画に基づく法令上の教員・教授数の安定的確保
評価指標	① 全部署での業務マニュアルの作成 ② 職員勤務評価の検証と職員のモチベーションを高めるための評価方法への改善 ③ 教員勤務評価制度の制定に向けた、問題点の洗い出しと確立 ④ クロスアポイントメント制度の実施				
評価指標	① 執行系事務の削減時間数：2024 年度比で 1 日一人当たり 1 時間以上 ② 評価の賞与・昇任（降任）・昇格（降格）等への反映、職務ベースの報酬設定その他役割・活躍に応じた処遇の実現 ③ 学部・大学院教育体制の再編及び紀尾井町キャンパス事務部の機能化 ④ 経営人財の育成を目的とする研修の適格者の受講率：第 2 期中に 100% ⑤ 総合的な教員人事計画に基づく法令上の教員・教授数の安定的確保				
24. 同窓会・父母後援会との連携 ①卒業生とのネットワークの整備と卒業生所在情報把握率改善 ②父母後援会地区懇談会等を利用した在学生父母との学生情報の共有 ③父母後援会、同窓会から大学への助成制度の継続	26. 校友等との連携強化 ①大学運営に当たって、教職員と学生の参加や校友と父母の協力のもとに社会連携を進めて大学の発展に努めるとともに、校友等（卒業・修了生、在学生、父母等、現旧教職員等）とのネットワークを強化する。				
<table border="1"> <tr> <td data-bbox="156 1153 295 1395">評価指標</td><td data-bbox="295 1153 805 1395"> ①ホームカミングデーの隔年開催 ②卒業生所在情報及びメールアドレス把握率：目標 80%以上 ③父母後援会地区懇談会の出席率向上：目標開催地区在籍者出席率 30%以上 </td></tr> </table>	評価指標	① ホームカミングデーの隔年開催 ② 卒業生所在情報及びメールアドレス把握率：目標 80%以上 ③ 父母後援会地区懇談会の出席率向上：目標開催地区在籍者出席率 30%以上	<table border="1"> <tr> <td data-bbox="833 1104 971 1489">評価指標</td><td data-bbox="971 1104 1482 1489"> ①卒業・修了生所在情報捕捉率：80% ②大学と校友等とのプラットフォームの発足 ③ホームカミングデーの定期開催とアンケート結果に基づく改善：校友参加率を 2023 年度比で 3 倍増 ④校友の参画による広報の活動数：年 3 件以上 ⑤校友の意見反映による施策の実施：年 2 件以上 </td></tr> </table>	評価指標	① 卒業・修了生所在情報捕捉率：80% ② 大学と校友等とのプラットフォームの発足 ③ ホームカミングデーの定期開催とアンケート結果に基づく改善：校友参加率を 2023 年度比で 3 倍増 ④ 校友の参画による広報の活動数：年 3 件以上 ⑤ 校友の意見反映による施策の実施：年 2 件以上
評価指標	① ホームカミングデーの隔年開催 ② 卒業生所在情報及びメールアドレス把握率：目標 80%以上 ③ 父母後援会地区懇談会の出席率向上：目標開催地区在籍者出席率 30%以上				
評価指標	① 卒業・修了生所在情報捕捉率：80% ② 大学と校友等とのプラットフォームの発足 ③ ホームカミングデーの定期開催とアンケート結果に基づく改善：校友参加率を 2023 年度比で 3 倍増 ④ 校友の参画による広報の活動数：年 3 件以上 ⑤ 校友の意見反映による施策の実施：年 2 件以上				
25. 創立 60 周年記念事業及び記念催事の完遂 ①創立 60 周年記念事業の実施（記念式典、記念講演会、募金活動等）	27. 健康的で快適なキャンパス環境の整備 ①多様な価値観が交流し、多文化が共生する開かれたキャンパスの実現を目指して、各キャンパスの特性を踏まえたビジョンに基づく整備計画を具体化し、省エネ・環境負荷軽減やウェルビーイングに配慮した戦略的施設マネジメントを推進する。				
<table border="1"> <tr> <td data-bbox="156 1747 295 1892">評価指標</td><td data-bbox="295 1747 805 1892"> ①記念式典の実施 2025 年 4 月 20 日（日） ②記念講演会の実施 ③募金活動 個人・企業・団体への募金活動 </td></tr> </table>	評価指標	① 記念式典の実施 2025 年 4 月 20 日（日） ② 記念講演会の実施 ③ 募金活動 個人・企業・団体への募金活動			
評価指標	① 記念式典の実施 2025 年 4 月 20 日（日） ② 記念講演会の実施 ③ 募金活動 個人・企業・団体への募金活動				

	<table border="1"> <tr> <td data-bbox="831 226 965 992"> 評価指標 </td><td data-bbox="965 226 1485 992"> ❶キャンパスマスタープランに基づく計画的な施設整備の実施 ❷施設の利用状況調査及び施設・設備の老朽度・安全性の点検調査を毎年度 1 回実施し、施設の有効活用を図る改善を毎年度実施 ❸施設・設備の不具合の解消及び故障等の未然防止（不具合・故障等の発生数）：2024 年度比で 5 割減 ❹多様な財源の活用による施設整備：第 2 期中に 1 件契約 ❺大学の玄関口としての JR 東金線求名駅整備の完了 ❻エネルギー使用量の削減：2024 年度比で 5 % 減 ❼CO₂ 排出量の削減：2013 年度比で 40%超減 </td></tr> </table>	評価指標	❶キャンパスマスタープランに基づく計画的な施設整備の実施 ❷施設の利用状況調査及び施設・設備の老朽度・安全性の点検調査を毎年度 1 回実施し、施設の有効活用を図る改善を毎年度実施 ❸施設・設備の不具合の解消及び故障等の未然防止（不具合・故障等の発生数）：2024 年度比で 5 割減 ❹多様な財源の活用による施設整備：第 2 期中に 1 件契約 ❺大学の玄関口としての JR 東金線求名駅整備の完了 ❻エネルギー使用量の削減：2024 年度比で 5 % 減 ❼CO₂ 排出量の削減：2013 年度比で 40%超減
評価指標	❶キャンパスマスタープランに基づく計画的な施設整備の実施 ❷施設の利用状況調査及び施設・設備の老朽度・安全性の点検調査を毎年度 1 回実施し、施設の有効活用を図る改善を毎年度実施 ❸施設・設備の不具合の解消及び故障等の未然防止（不具合・故障等の発生数）：2024 年度比で 5 割減 ❹多様な財源の活用による施設整備：第 2 期中に 1 件契約 ❺大学の玄関口としての JR 東金線求名駅整備の完了 ❻エネルギー使用量の削減：2024 年度比で 5 % 減 ❼CO₂ 排出量の削減：2013 年度比で 40%超減		

第2期中期計画（法人）

「財務」	「人事」										
1. 収支の改善 ① 経常収支差額 教育研究を持続的に発展させるとともに、施設設備への投資を適切に実施するため、本中期計画の最終年度までに経常収支差額を安定的にプラスとし、財政基盤の強化を図る。 <table border="1"> <tr> <td>評価指標</td><td>① 経常収支差額プラス</td></tr> </table> 2. 収入の安定確保 ① 学納金収入 現下の経済社会の変化に対応する教育研究組織の再編及び教育プログラムの見直しを通じて、学生募集の強化を図り、学納金収入を安定的に確保する。 ② 外部資金獲得 補助金、寄付金等の外部資金獲得を強化する。 ③ 資産運用 これまでの資産運用の在り方を見直し、外部の専門的知見も活用しつつ、リスク管理に留意して収益率の向上を目指す。 <table border="1"> <tr> <td>評価指標</td><td> ① 学納金収入増 ② 補助金、寄付金増 ③ 運用収益率向上 </td></tr> </table> 3. 支出の適切な管理 ① 経常経費節減 各種既存事業の見直し、業者選定の見直し、IT化・DX等を通じて経常経費の節減を図り、経費支出の規模を適切に管理する。 ② 施設設備計画 紀尾井町キャンパス3号棟の増築事業を実施（2028年度竣工予定）。既存の施設設備は、更新・改修を適切に実施し、維持管理に努める。 <table border="1"> <tr> <td>評価指標</td><td> ① 経常支出削減 ② 紀尾井町キャンパス3号棟増築 </td></tr> </table>	評価指標	① 経常収支差額プラス	評価指標	① 学納金収入増 ② 補助金、寄付金増 ③ 運用収益率向上	評価指標	① 経常支出削減 ② 紀尾井町キャンパス3号棟増築	4. 人事制度の見直し ① 人事制度の見直し 業績評価や職責が処遇に適切に反映されるように、現行人事制度の見直しを実施する。教員については、基幹教員制度を活用するとともに、クロスアポイント制度を導入する。 <table border="1"> <tr> <td>評価指標</td><td>① 人事制度見直し</td></tr> </table> 5. 人材獲得及び人材育成の強化 ① 人材獲得 中期的観点からの戦略的な人事計画を策定し、適切な教職員体制を整備するために必要な人材を獲得する。 ② 人材育成 職員の各階層に応じた研修を充実させ、本学の発展に寄与する人材を育成する。 <table border="1"> <tr> <td>評価指標</td><td> ① 人事計画策定・実施 ② 研修計画策定・実施 </td></tr> </table>	評価指標	① 人事制度見直し	評価指標	① 人事計画策定・実施 ② 研修計画策定・実施
評価指標	① 経常収支差額プラス										
評価指標	① 学納金収入増 ② 補助金、寄付金増 ③ 運用収益率向上										
評価指標	① 経常支出削減 ② 紀尾井町キャンパス3号棟増築										
評価指標	① 人事制度見直し										
評価指標	① 人事計画策定・実施 ② 研修計画策定・実施										